

太地町

Mobility
Transformation

自動運転



- P.1 太地町長のまちづくりへの思い
- P.2 自動運転は高齢者に好評!
- P.3 さらに自動運転サービスのエリア拡大へ
- P.4 道の駅「たいじ」～JR太地駅を結ぶ自動運転サービス地域実装協議会

自動運転導入で



太地町長のまちづくりへの思い

誰もがいつでも どこでも行けるまち



(左から)太地町和田主査、漁野副町長、三軒町長、紀南河川国道事務所渡邊事務所長

社会実装から1年が経った自動運転サービスについて、太地町三軒町長に実装に至った経緯や今後のまちづくりの思いを聞きました。

まち全体を公園とし、
理想のまちをつくりたい

—— 三軒町長

「まちづくりビジョンの最初の10年目は、障害者と高齢者のために交通体系を整えたいと考え、他地域へ視察をしました。」

そうした中、国土交通省から自動運転の話聞いたときは衝撃で「これだ！自動運転を活用したい！」と思いました。助言をもらい太地町でもやれると思います、自動運転実装に至りました。

自動運転は、いずれは道の駅エリア、そして最終的にはまち全体で実施したい。

交通体系は無料で、年金でも住めるまちをつくり、高齢者の方が、自動運転に乗っていつでもどこでもいける幸せなまちにしたい」



利用者に生の声を聞きました

一人暮らしで乗客や運転手との会話もできて楽しみが増えました

感謝の一つです。今後も続けてほしい



足が悪いので買い物に行くのに大変助かります

買い物や家族に会うなど、外出機会が増えました



普段はスーパーへの買い物や兄妹の家に行く時に利用しています
自動運転サービスのおかげで、時間があれば行けるようになりました

家の前まで来てくれて大変助かっています



自動運転は高齢者に好評!

まるで自分専用の「チンチン電車」

実装開始から

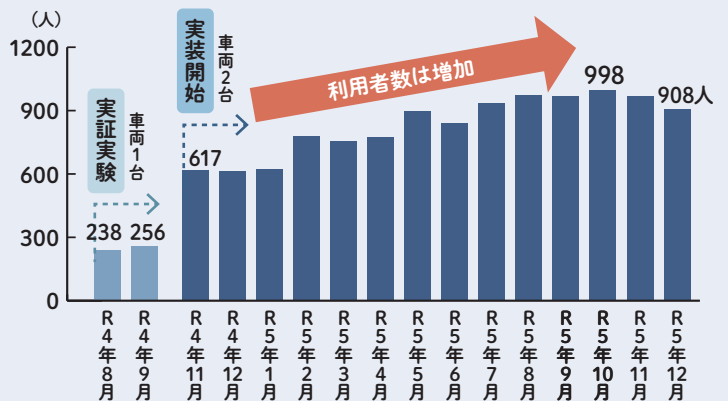
徐々に利用者が増加、

外出のきっかけに

自動運転サービス実装後は、利用者が徐々に増え、今では1カ月に千人近くの方が利用しています。

サービス実装後のアンケートでは、半数以上の方が自動運転サービスにより外出機会が増えていると答えました。

今後も一人暮らしの高齢者の外出が増えていくことが期待されます。



さらに自動運転サービスのエリア拡大へ

便利なだけじゃない ずっと安心して 暮らせるまちへ



健康増進・福祉支援に つなげていく

自動運転サービスは、買い物・通院への利便性が向上したため地域住民から好評で、高齢化率が高い令和6年度の隣接地区へのエリア拡大にむけて事業を進めることになりました。

拡大されるエリア内には、太地町多目的センターがあり、トレーニングルームや室内プールを備えるこの施設と自動運転サービスがつながること、高齢者の方の体力作りや健康増進、福祉支援との連携などに役立つことが期待できます。

バスロケーションシステムで 更に利用しやすくなりました！

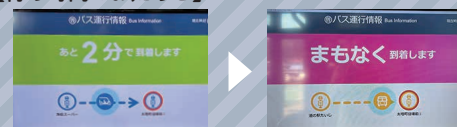
自動運転サービスを更に利用しやすくするため、令和5年3月より町内7箇所にバスロケーションシステムを導入しました。

モニターには自動運転車両やじゅんかんバスの位置情報や到着時刻をお知らせします。

【車両位置の表示】



【待ち時間のお知らせ】



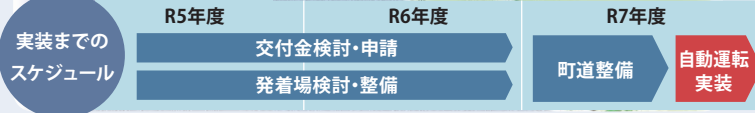


発着場は“くじら”をイメージしたもので整備予定

住民にも、訪れた人にも、 もっと活用してもらいたい



道の駅「たいじ」～JR太地駅を結ぶ自動運転サービス地域実装協議会



更なる自動運転サービスの拡大に向け、令和5年9月29日、道の駅「たいじ」～JR太地駅を結ぶ自動運転サービス地域実装協議会を設立しました。
新たな区間は太地町の玄関口である道の駅「たいじ」とJR太地駅を自動運転サービスでつなぐものです。
令和7年度のサービス開始を目指し、国・県・町が連携し、整備を進めていきます。



●最新情報はこちら

(旧Twitter)